

### 第8回現地研修会の報告

#### はじめに

道北技術士会では、去る2009年（平成21年）7月15日（水）、「北空知における新しい農業展開と活性化」をテーマに「第8回現地研修会」を実施しました。

以下に概要を報告します。

#### 1）北空知頭首工、深川幹線用水路の見学

北空知地域は北海道を代表する田園地域である。北空知頭首工は、深川市の東部石狩川より取水し、北空知地域3市1町の農地（11,876 ha）を対象としており、農作業の効率化、水管理の合理化によって、土地生産性の向上、農業経営の安定に寄与している。



北空知頭首工（右岸側より臨む）

#### 北空知頭首工の概要

- ・石狩川両岸取水
- ・最大取水量右岸 26.34 m<sup>3</sup>/s
- ・型式～全可動
- ・堤高 4.9 m
- ・堤長 141.3 m
- ・取水門～3門（右岸）
- ・土砂吐～1門
- ・洪水吐～3門

各施設について、深川土地改良区 中嶋参事に説明していただいた。



施設説明をされる中嶋参事

その後、深川幹線用水路の揚水機、除塵機を見学し、各施設の概要について説明していただいた。

合わせて、深川幹線以前に使用されていた大正用水路の跡地である大正緑道に建立されている記念碑や旧施設を見学した。

#### 2）拓殖大学北海道短期大学 農業公開デー参加

深川市内の拓殖大学北海道短期大学 環境農学科が開催する農業公開デーに参加した。



研究内容について説明する学生と教授

同短大の研究圃場で栽培するスターチス、トマト、イチゴ等、それぞれ花卉、野菜、果物について、研究内容や成果から流通事情や経営事情に関すること

まで、環境農学科2年生の学生が中心となって説明していただいた。

その後、同研究圃場で収穫した古代米や豆類等を使って作った、ちらし寿司や豆腐等の試食をした。

### 3) 講演

演題：「北国の施設園芸と主な品目の加温エネルギーについて」

講師：拓殖大学北海道短期大学 環境農学科教授  
大道雅之氏

#### 講演要旨

農業のエネルギー消費は、農業機械類の軽油、酪農施設用の電気・灯油、施設園芸用の灯油・重油等であるが、原油価格高等で施設園芸の加温用燃料代が増加し、農業経営を圧迫している。しかし、北海道の施設園芸加温用燃料消費量は十分把握されているとは言い難い。そこで、主要施設園芸品目の加温用燃料消費量について聞き取り調査を行い、消費量を把握することができたので、報告する。

また、施設野菜・花卉栽培では、加温栽培することにより新しい作型が工夫され地域の基幹作型になっている産地が北海道内にいくつか見られる。これは、北海道の中で地域の気象条件やハウスの構造及び保温条件等を考慮しながら工夫されてきた結果であると考えられる。



教授 大道雅之氏の講演

北国の施設園芸においては、きめ細やかな温度管理を行うことで燃料消費量の軽減を図ることはある程度可能であると考えられたが、原油価格をはじめ農業における諸材料・資材の価格変動リスクをどう

乗り切るかは、大きな視点で検討していく必要がある。同時に短期的な対応も適切に実施していくことが現地からも望まれている。

現在、全国で省エネ暖房機や省エネ被覆資材の開発・利用が検討されている。近い将来に実用可能と思われる機材について早急に試験、性能調査を進めて、実用化を強く推進していく必要がある。

### 4) 廃校になった校舎の有効利用

当日の昼食は、深川市音江町の文部科学省全国リニューアル50校に選定された向陽館にてとった。

廃校になった校舎を、現在は美術館として有効利用しており、木造の校舎の暖かな雰囲気が美術品に調和しており、地域の憩いの場となっている。



ぬくもりの里 芸術文化交流施設・向陽館

#### おわりに

北空知頭首工とその関連施設の見学は、大規模な施設に圧倒されながらも、きめ細かい管理によって稼動していることを実感し、地域農業への貢献度の高さを再認識するとともに、大正緑道の記念碑や旧施設を見て、先人の開拓・開墾の労苦に思いを馳せました。また、大道教授の講演の質疑では、農業経営の実情について鋭いものがあり、経営の成り立つ農業に技術面から貢献しようとする教授の熱意を感じました。

現在、農業を取り巻く環境はFTAや戸別補償、企業参入等、劇的に変化することが考えられますが、北海道の強みを生かした農業について、改めて考えさせられました。

(文責：道北技術士会幹事 高桑 史郎)